

# ぐう数・き数の ぶどう算 ③

小5／4だん・5だんを うめて 数で たしかめよう

なまえ \_\_\_\_\_

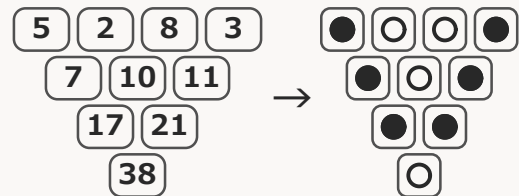
ひづけ \_\_\_\_\_

- ・ ぐう数(2で わりきれ数)は ○(ふちだけ)、き数(2で わると 1 あまる 数)は ●(ぬりつぶす)。きまり表の つかい方は、となりあう 2つ を 見て、同じ ならびの 行を さがし、その 行の 右の しるしを 2つの 間の 下に 書く。だんが ふえても やり方は 同じで、上の だんから 1だんずつ 下へ 書く。
- ・ ①は、○と ●だけで ぶどうを 一番 下まで うめる。(1)(2)は 4だん、(3)は 5だんの ぶどう。
- ・ ②の 2つの 数の ぶどうは、左が ①の (1)、右が ①の (2)と 同じ ぐう数・き数の ならびに なっている(ぶどうの 左に ①の (1)、①の (2)と 書いてある)。一番 上の 数の 上の ○か ● は、その 数が ぐう数か き数かを あらわす しるしで、もう 印刷して ある。数の ぶどうは、となりあう 2つの 数を たして 下に 書く ふつうの ぶどう算。計算で うめて、一番 下の 数が ぐう数なら ○、き数なら ● を ぶどうの 右に ある □(1つ)に 書く。その ○か ● を、左の ぶどうは ①の (1)、右の ぶどうは ①の (2)の 一番 下の ○●と くらべる(くらべた 結果は 書かない)。同じなら 合っている。
- ・ 一番 下が 合わなかったら、②の 数の ぶどうと、くらべた ①の ○●の ぶどうを、上の だんから 同じ だん どうして くらべて、はじめに ちがう 場所を さがし、数の 計算か ○●の きまりの 見まちがいを 直そう。

きまり表

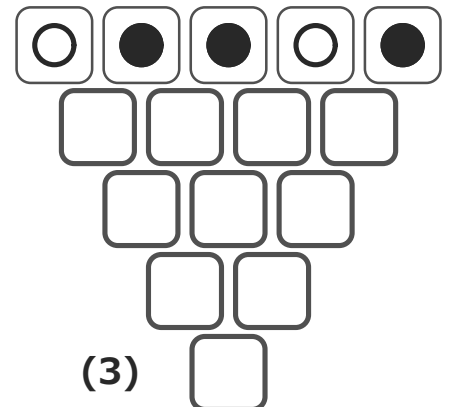
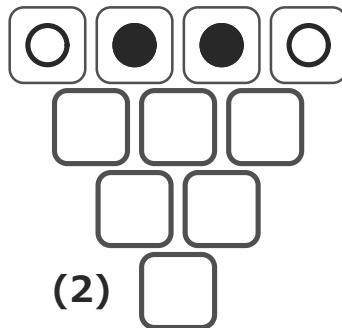
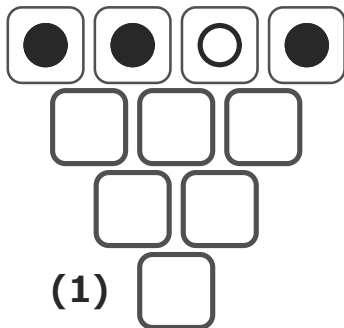
- + ○ = ○ ぐう数+ぐう数=ぐう数 (2+4=6)
- + ● = ○ き数+き数=ぐう数 (3+5=8)
- + ● = ● ぐう数+き数=き数 (2+3=5)
- + ○ = ● き数+ぐう数=き数 (3+2=5)

れい ○●の ぶどうと 数の ぶどう

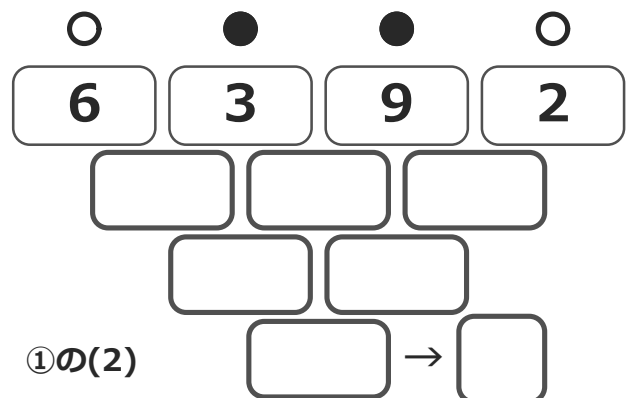
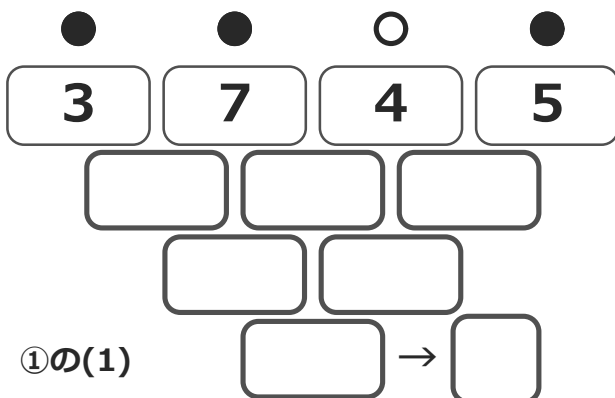


数の ぶどうの 一番 下は 38(ぐう数)だから ○。  
○●の ぶどうの 一番 下も ○。同じに なった。

## ① ○と ●で うめて、一番 下の ○●を 予想しよう



## ② 数で たしかめよう 一番 下の 数が ぐう数なら ○、き数なら ● を □に



# ぐう数・き数の ぶどう算 ③【こたえ】

小5／4だん・5だんを うめて 数で たしかめよう

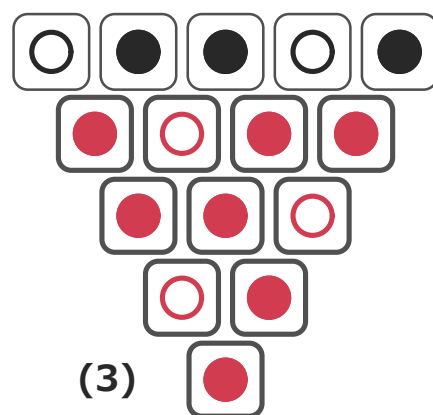
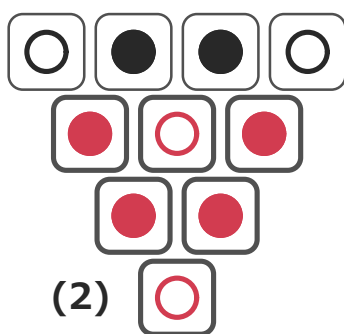
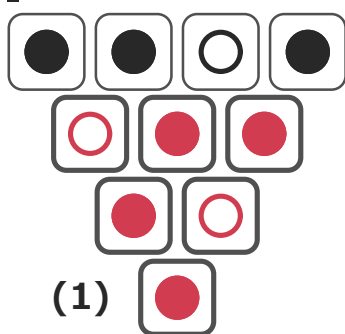
なまえ \_\_\_\_\_

ひづけ \_\_\_\_\_

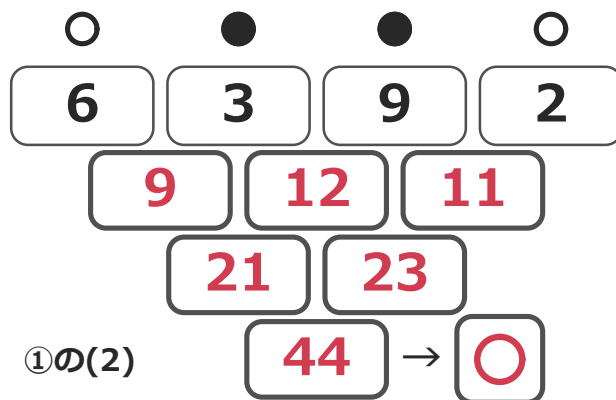
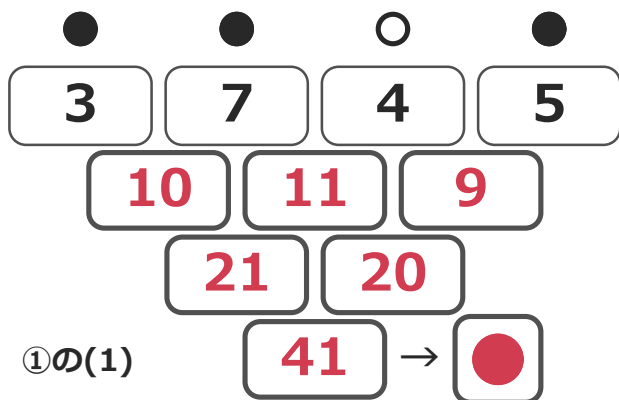
## こたえ(赤い ところが こたえ)

- ・ となりあう 2つが 同じなら ○、ちがえば ●。上の だんから 1だんずつ 下へ。
- ・ ①の (1) ●●○○ → ○●● → ●○ → ●
- ・ ①の (2) ○●●○ → ●○● → ●● → ○
- ・ ①の (3) ○●●○● → ●○●● → ●●○ → ○● → ●
- ・ ②の ①の (1) 数の 一番 下は 41(き数) → ●。①の よそうの ● と 同じ。
- ・ ②の ①の (2) 数の 一番 下は 44(ぐう数) → ○。①の よそうの ○ と 同じ。

## ① ○と ●で うめて、一番 下の ○●を 予想しよう



## ② 数で たしかめよう 一番 下の 数が ぐう数なら ○、き数なら ● を □に



## おうちの方へ

一番 下の ○●を 当てるだけなら 近道が あります。4だんなら 一番 上の ●の 個数が 奇数(1つ・3つ)なら ●、偶数(0・2・4つ)なら ○。5だんなら 一番 上の 左はしと 右はしが ちがえば ●、同じなら ○。気づいたら ほめて よいですが、この 紙では 全部の □に 書いて 合っていることを 正解に します。

②で 数の ぶどうの 一番 下が ①の よそうと 合わない ときは、数の ぶどうと ○●の ぶどうを 上の だんから 同じ だんどうして くらべ、はじめに ちがう 場所を さがすように 声を かけてください(数を 見まちがえたか、○●の きまりを 取りちがえた はずです)。

ぐう数・き数は 学校では 偶数・奇数と 書きます。